令和４年度第２回新潟市認知症対策地域連携推進会議 会議録

開催日時：令和５年３月２８日（火）午後７時～午後８時３０分

会　　場：新潟市役所本館３階　対策室（オンライン開催と併用）

出席委員：荒木委員　池内委員　近委員　佐野委員　田中委員　等々力委員　成瀬委員　森委員

欠席委員：荒井委員　久保委員　渡邉委員

事務局出席者：地域包括ケア推進課　　高橋課長　井越課長補佐　古田係長　小柳係長　渡邊主査

來田主査

安達症地域支援推進員

小川症地域支援推進員

関係課出席者：こころの健康センター　吉田主査（オンライン参加）

地域医療推進課　　伊藤課長（オンライン参加）

障がい福祉課　　上村課長補佐

高齢者支援課　　岡村課長補佐

介護保険課　　川上課長補佐

保険年金課　　健康支援推進室　山田室長

北区健康福祉課　　高齢介護担当　熊倉主査（オンライン参加）

中央区健康福祉課　　関谷課長補佐（オンライン参加）

高齢介護担当　平岩主査（オンライン参加）

南区健康福祉課　　高齢介護担当　小野寺主査

西区健康福祉課　　高齢介護担当　梨本係長

傍 聴 者：なし

（司　会）

南区の到着が若干遅れておりますけれども、定刻となりましたので、これより令和４年度第２回新潟市認知症対策地域連携推進会議をはじめさせていただきます。会議冒頭の進行役を務めさせていただきます地域包括ケア推進課課長補佐の井越と申します。どうぞよろしくお願いいたします。大変恐れ入りますが、ここから着座にて進めさせていただきます。本日の会議は、委員の皆さまはじめ本庁関係課の皆さまにおかれては、この会場に参集いただいておりますが、地域医療推進課、一部各区におきましてはオンラインでの参加となっており、いわゆるハイブリット型

にて進めさせていただきたいと思いますのでご承知おき頂きたいと思います。本日は、荒井委員、久保委員、渡邉委員からご欠席されるとのご連絡を頂戴しております。前回の１１月の会議ののち、委員の改選がありましたので本日ご報告させていただきたいと思います。

新潟市民生委員児童委員協議会連合会生活援護部会部の前会長であります阿部哲郎様に代わりまして、同部会の現会長であります森利博様から新たに委員にご就任いただきました。恐れ入りますが森委員から一言、ごあいさつを頂戴できればと思います。

（森委員）

はい、森利博と申します。民生委員になって約６年ということで、地域では認知症だとかいうお話を聞いたりだとか、取り組みとしてはちょっとした劇をやってみたりとか、そういうちょっとした入口の取組みしか知らないので、これからこの場でいろいろと勉強させていただいて地域に持ち帰れればなと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

（司　会）

ありがとうございました。本日の会議につきましては、会議録作成のため録音させていただきたいと思いますので、どうぞよろしくお願いします。

次に、議事に入る前に本日使用します会議資料の確認を皆さまにお願いしたいと思います。事前配布資料としてお送りした資料でございます。一つ目が次第でございます、それから認知症対策地域連携推進会議委員名簿でございます。次に資料１としまして、新潟市地域包括ケア計画における認知症施策の実施状況、次に資料２といたしまして令和５年度区予算とあります資料、それから参考資料といたしまして令和５年度当初予算主要事業と書かれた資料の５点でございます。以上が事前に送付させていただいたものになりますけれども、不足などございませんでしょうか。あればお申しつけいただければと思います。加えまして本日机上に席次表を別途置かせていただきました。配布資料は以上になります。途中で不足のものがありましたらお声掛けいただければと思います。では次第に沿って進行させていただきたいとお思います。

次第の１になります。開会に当たりまして地域包括ケア推進課課長の高橋よりご挨拶をさせていただきます。

（高橋課長）

皆様こんばんは、地域包括ケア推進課の高橋と申します。委員の皆さまからは、日ごろより、本市の認知症施策にご協力いただきまして感謝申し上げます。本日は夜間の会議にもかかわらずご参加いただきまして大変にありがとうございます。新型コロナウイルスにつきましては、一時より落ち着いてまいりまして、本日は一部リモートでご参加の方もいらっしゃいますけれども、久方ぶりに皆様方と対面で会議ができるようになりました。新型コロナウイルスがこのまま終息に向かうことを願うばかりでございます。さて、本日の会議についてですが、次第にありますよ

うに、第８期地域包括ケア計画における認知症施策の実施状況と来年度の主な取り組みについて報告させていただいたのち、現在実施しておりますチームオレンジ、こちらの構築にあたり、今後の進め方について皆様方からご意見を頂戴いただければと考えております。

今後、高齢者人口がますます増加することに伴い、認知症の方も増えてまいります。認知症の方が住み慣れたまちで安心して暮らすことができよう、地域での見守り体制を構築することが重要となってまいりますので、本日はどうぞよろしくお願いいたします。

（司　会）

続きまして、次第の２、議事になります。ここからは座長の池内委員にお願いしたいと思います。よろしくお願いいたします。

（座　長）

皆さんこんばんは、新潟大学の池内と申します。さっそくではございますが議事に入らさせていただきます。ここからは私の方で進めさせていただきます。

議事（１）新潟市第８期地域包括ケア計画における認知症施策の取り組み及び各区の取り組みについて事務局からご説明お願いします。

（事務局：小柳）

地域包括ケア推進課の小柳と申します。いつもお世話になっております。それでは私の方から説明をさせていただきたいと思います。すみません、座らさせていただきます。

新潟市地域包括ケア計画における認知症施策につきましては、お配りした資料１新潟市地域包括ケア計画における認知症施策の実施状況を使って説明させていただきます。この度新しく委員になられた方もいらっしゃいますので、資料の見方について少し簡単に説明させていただいのちに報告に移らさせていただきます。

それでは資料１をご覧ください。新潟市地域包括ケア計画における「認知症施策の推進」への取り組みは大きく４つあります。４つの取り組みについては、この資料一枚目の左上の①、正しい知識と理解の普及との記載がありますよう、次ページ以降にある②番から④番までのものが４つの取り組みとなります。取り組みの一つ目が正しい知識と理解の普及、２つ目として予防と社会参加、３つ目として医療・介護連携による切れ目ない支援、４つ目が認知症に理解ある地域社会の実現で、それぞれの取り組みに関連した事業についての実績が載っております。資料の表中央の「指標および実施状況」にある実績値につきましては、令和３年度までは確定値を令和４年度は見込み値となっています。本日は、時間も限られておりますので主な事業について説明させていただきます。また、当課関連の令和５年度予算については別途お配りした参考資料を後ほどご確認いただければと思います。

それでは資料１の１ページ目をご覧ください。「①正しい知識と理解の普及」についてです。

事業ナンバー１の認知症サポーターの養成になります。これまで多くの方を養成してきましたが、新型コロナウイルスの影響で企業・事業所、学校からの依頼が減少しています。新型コロナウイルスが５類に移行した後、徐々に養成者数の増加も見込まれることから、今後は企業・事業所への周知啓発に力を入れ、新型コロナウイルス前の状況に戻せるよう取り組みを進めていきます。次ページをご覧ください。「②予防と社会参加」の取り組みについてです。資料の表頭一番左端の取組方針にもありますように、運動不足の改善、糖尿病や高血圧等の生活習慣病の予防、社会参加などは認知症の発症予防や進行を遅らさせることに効果があるといわれています。特にフレイル状態になる以前のから取り組みが大切になりますので、事業ナンバー６のフレイル予防事業については、全行政区域に実施圏域を拡大し介護予防を推進していきます。

次、事業ナンバー７認知症カフェや地域の茶の間の支援になります。認知症になっても支える側として活躍できるよう、身近な地域にある認知症カフェや地域の茶の間など、様々な地域活動ができる場を充実させていくことが重要となります。特に、身近な地域において認知症の人やその家族にとって居場所となる認知症カフェの充実は必須となります。

今年度、認知症カフェの情報交換会では、しもまちでの認知症カフェの取り組みを本日お越しの井上さんからご説明いただき、「地域の中における認知症カフェのあり方」についてカフェ運営者と情報交換を行いました。今後も認知症カフェの情報交換会等を行うとともに、認知症地域支援コーディネーターとも連携しながら、認知症カフェへの立ち上げやすでに設置されている認知症カフェの運営支援につながる取組みを行っていきます。

次に同じページの中段にある「③医療・介護連携による切れ目ない支援」の取り組みについてです。まず、事業ナンバー８認知症初期集中支援チームの設置についてですが、相談件数の伸び悩み等が課題としてありましたので、今年度はチーム同士の情報交換や研修会などを実施するほか、地域包括支援センターと相互理解を図る取組みを行いました。これまで、どのようなケースをチームに相談してよいのかわからなかった地域包括支援センターからもチームへの相談が上がってくるなど成果も少しずつ見られてきております。次年度も引き続き研修会の開催などを実施し、事業の活性化に向けた取り組みを進めていきます。

また、資料には記載はありませんが、令和５年度からは認知症初期集中チームの委託料について、初回訪問の実績が反映されるよう変更することとしています。今後の事業実績等を踏まえ、運用の在り方について引き続き検討を行っていく予定です。

なお、例年報告していましたチームの活動状況の報告につましては、次回会議で報告させていただきます。事業ナンバー９以降、ナンバー１１まででは各種研修となります。事業ナンバー９と１０の医療系の研修においては実績のとおりですが、令和５年度には新たに歯科医師、薬剤師、看護師、病院勤務以外の看護師等を対象とした４つの研修を県と共同で実施いたしま

す。

次に次ページになります。こちらは介護系の研修になりますが、オンラインによる参加のしやすさもあり受講者数が伸びている研修もありましたが、特に新型コロナウイルス感染拡大時には、受講者自身の感染、施設内の感染拡大により受講を辞退するなど、定員に満たない研修もありました。今後も引き続き、オンライン開催など研修参加しやすい環境を整備していきます。

次の４ページをご覧ください。「③医療、介護連携による切れ目ない支援」になります。事業ナンバー１３本日の会議であります認知症対策地域連携推進会議になります。

今年度の認知症対策地域連携推進会議は年２回の開催でしたが、令和５年度は新潟市地域包括ケア計画の次期第９期計画の策定年度となりますので、年３回の開催を予定しています。

次の５ページをご覧ください。「④認知症に理解ある地域社会の実現」への取り組みになります。事業ナンバー２１の認知症サポーター活動促進・地域づくり推進事業になりますが、これは、表頭左から３つ目の事業概要にありますように認知症の人が地域で安心して暮らせるよう、認知症の人や家族のニーズを認知症サポーターにつなぐ仕組みを構築する、いわゆるチームオレンジの整備に関る事業です。現在、チームオレンジは認知症地域支援コーディネーターを配置し、活動地域を中央区に限定しモデル事業を実施しています。次年度はコーディネーターの活動範囲を中央区以外にも広げ、すでに設置済みの認知症カフェへの運営への助言や新たに立ち上がる認知症カフェの支援など、各区のチームオレンジの整備に積極的にかかわっていただきたいと考えております。この資料の説明は、簡単ですが以上になります。なお、各区の各区の取り組みについては、資料２として配布いたしました一覧表をご確認いただければと思います。説明は以上となります。

（座　長）

はい、ありがとうございました。それでは資料２の各区の令和５年度の取り組みについてもおまとめいただいております。本日この会場、オンラインで各区からご参加いただいておりますので、各区の活動内容についてご紹介いただければと思います。では、最初は西区のご担当の方よろしくお願いいたします。

（西　区）

西区健康福祉課高齢担当の梨本と申します、よろしくお願いいたします。西区が行う令和５年度の事業についてご説明いたします。表の下から３行目から４行目になります。西区としては地域共生の西区づくり事業、認知症オレンジプロジェクト事業を行う予定です。そのうち認知症オレンジプロジェクトについて、認知症サポーター養成講座というのがありますが、これは西区の小中学生を対象に次世代を担う若者に認知症の知識を学んでもらいまた、高齢者の接し方につい

て学んでもらうといものになっています。令和４年度からマルタケさんが事務局となっている西区のキャラバン・メイト連絡会の「オレンジにし」と協同いたしまして、受付などをしてもらうことでスムーズに講座が受けられるような仕組みをつくっております。その次に認知症あんしん検診事業、これは令和４年度から開始したものになりますが、認知症の早期発見が大事ということで、簡易検査と予防セミナーをセットにし、高齢者の方に認知症についての早期発見の啓発を目的とした事業で、こちらを引き続き令和５年も行う予定となっています。西区からは簡単ですが以上です。

（座　長）

はい、ありがとうございました。では、続きまして南区からご担当の方、よろしくお願いいたします。

（南　区）

いつも大変お世話になっております。南区健康福祉課の小野寺と申します。南区の事業になりますが、こちらは表の下から６番目と５番目になります。まず、下から６番目ですが、食育・運動講座、健康測定会ということで、バランスの取れた食事、運動習慣の定着化のために講座を行ってまいります。また、自ら健康を意識するきっかけとなる健康測定会を開催予定です。

続きまして、地域の茶の間「出張健康教育」ということで、こちら区内ですが６０以上の茶の間がございますが、こちらの団体に年間２回まで依頼があったところに介護予防、フレイル予防などの講話と健康相談を保健師、栄養士、歯科衛生士などが行っていく予定です。以上になります。

（座　長）

はい、ありがとうございます。では、オンラインで参加いただいております中央区のご担当の方、ご説明お願いできますでしょうか。

（中央区）

中央区健康福祉課の平岩と申します。中央区では令和５年度から新規事業として認知症地域支えあい推進事業を開始します。事業概要はこちらに記載しておりますとおり、現在区で行われている認知症の出前講座や各種健康相談など既存の講座との連携やそのほかにも民生委員さんの会議ですとかコミニュティ協議会など地域の支援関係者に対する講座を行いまして認知症の正しい理解や地域づくりを進めるといった普及啓発の推進を行っていきます。具体的には啓発用リーフレットを中央区で作成したり、中央区版のケアパスを作成し啓発を図っていきたいと考えております。また、区だよりやホームページの活用も検討しています。二つ目の認知症支援や地域づくり等による関係者との連携強化による認知症支援体制の整備ですが、こちらはキャラバン・メイト連絡会を中心といたしまして、地域で支える支援者側の連携支援体制を強化していく事業

となります。具体的には、連絡会を中心に今後の中央区での取り組みを検討していき形づくっていきたいと思っております。あと、三つ目の徘徊模擬訓練の開催や認知症サポーター活動の支援による地域づくりの推進ですが、中央区でモデル実施しているチームオレンジで行われた徘徊模擬訓練を他の圏域にも広がりをみせられるように、各地域での取り組みを支援したいと思っております。あと中央区では、定期開催している認知症サポーター養成講座であったり、認知症カフェが大変活発に活動されておりますが、こちらで養成された認知症サポーターさんがよりもっと地域づくりに取り組めるよう、意欲のある方を地域づくりにつなげていく活動ということで地域の担い手が活動しやすいような支援を行っていきたいと思っております。以上です。

（座　長）

はい、ありがとうございました。引き続きまして、北区担当の方、よろしくお願いいたします。

（北　区）

北区健康福祉課の熊倉と申します、よろしくお願いいたします。北区では表の上から二つとなります。一つ目は、令和５年度から新規事業として独居高齢者の栄養・口腔に関する大学との共同調査を行う予定となっています。二つ目の北区もの忘れ検診につきましては、平成２９年度より開催しております。認知機能低下が疑われる人を早期に発見し、適切な支援・サービスにつなげるため、区内の６５歳以上の希望者に対し、国保の特定健康診査、後期高齢者の健康診査を受診の際に検診として実施しております。今年度、４月から１２月までにもの忘れ検診を受診した方は６７５名、精密検査対象となった方は４名でした。４名の方は全員、精密検査を受診されています。要経過観察及び要精密検査となった方につきましては、全員の方に地域包括支援センターが関わり、必要なサービスにつなげています。令和５年度も今年度同様、もの忘れ検診を行っていく予定となっております。以上です。

（座　長）

はい、ありがとうございました。新潟市全体、それから各区の活動についてご説明いただきました。では、ここから意見交換していきたいと思います。ご質問、ご意見いかがでしょうか。少し広範囲になりますけれども、では、成瀬委員からお願いできますでしょうか。

（成瀬委員）

引き続き事業を進めていっていただくといいかなと思います。個別にはいろいろなことがあると思いますが、区でもいろいろと計画もあるようで、それを是非進めていっていただくといいのかなと思っております。

（座　長）

はい、ありがとうございます。では、森委員いかがでしょうか。

（森委員）

今、３区の活動を聞かさせていただいたのですが、認知症ってある一面で簡単のようで判断が難しいのと、対応が人によって違うというところがあるのでこういういろいろな取り組みのなかで何がいいか、何がフレイルから悪化させないことが必要なのかと感じました。以上です。

（座　長）

はい、ありがとうございます。では、近委員いかがでしょうか。

（近委員）

事業ナンバーの２番、キャラバン・メイトの養成のところで、着実に人数が増えていると感じていますが、実際メイトで活動ができている人がどれくらいかと。実践経験者であるとか、最初の一歩の人がどれくらいいるのかなと考えると実際はこの人数を見ると半分もいらっしゃらないのかなというのを感じていますので、チームオレンジの取り組みというのもありますので、地域に眠っているメイトさんを動かすようなことが来年度できるといいのかなと思っています。資料を見て感じました。以上です。

（座　長）

はい、ありがとうございます。荒木委員、いかがでしょうか。

（荒木委員）

しばらくコロナの影響がありまして、このサポーター養成講座というのがお顔を合わせてできるのが現実的に減ったと思っております。苦肉の策がオンラインで、オンラインは小学生なんかは意外と盛り上がってくださって、さすが子供さんたちはテレビっ子とはもう言わないかもしれませんが、慣れてくださってありがたいなと思いました。企業さんに対しては、今年度ではなく、昨年度でしたけれども私どものセンターで郵便局さんに向けてサポーター養成講座をさせていただきました。その時にオンラインでしたけれども、非常に真剣に聞いていただけましたし、コロナならではでありましたが逆に真剣に見ていただく機会をいただいたのかなという印象を持ったところでした。また更に、西区の方では検診事業を行ってくださいまして、これは私たち相談窓口としてはとてもありがたくて。なかなか受診につなげるというきっかけがなかったというところでは、私自身も何ケースか、何とか検診に行っていただく機会を持つことができましたし、さらにそこから始まって、幸齢ますますの事業にもつなげることができた方もおりました。ですので、何かにつなげていくきっかけとして、検診事業はとても有効だなと感じております。是非、続けていただきたいなと思っております。以上です。

（座　長）

はい、ありがとうございました。等々力委員いかがでしょうか。

（等々力委員）

特に印象に残ったのは、③のところの医療・介護連携による切れ目ない支援のところで、今後

の主な取り組みで、今までかかりつけ医の対応力向上研修というのがあったんですが、歯科医師、薬剤師、看護職員に広げたということが非常によかったなと思いました。特に歯科の口腔ケアというのは大事で、歯が痛いので BPSD に近いようなことが起きている方もいますし、特に本人が歯科の音がしたり環境が変わったり、説明が入らないので受診というのが大変なんですけれども、先日、ご主人が認知症方で、先生からの指示が入らなく口が開けられなくって先生から診れないよとみんなの前で怒鳴られたとかというのも聞きました。歯科の先生に受けていただくことと、これだけ広げたことで、専門医やかかりつけ医でないスタッフに広げたことで認知症の知識を得て、しっかり見てくれることで早期に専門医の受診にさらにつながるのかなと思っており、これはよかったと思っております。先ほど話が出たように、キャラバン・メイトの方が大勢いても、西蒲区で聞いたんですがほんとに一部の方しか実施していなくて。本人が人を集めたりとか、計画を立てて人前で講座を開くという非常に高いハードルがあるので、今もされていますが各区のキャバン・メイトの連絡会の方々なんかがそういった方に一緒について考えていただいたり、実施していただくことと、私たちの会では、全ての人がサポーターであってほしいと思っておりますので。それと、先日、北区の学校で１月に認知症サポーター養成講座を行ってきたんですけれども、非常に子供たちからもいい感想をいただいて、改めてそういうのも大事だなというふうに思っております。以上です。

（座　長）

ありがとうございました。田中委員よろしくお願いいたします。

（田中委員）

各区の取り組みを拝見させていただいて、本当に様々な取り組みをされているなあと思いました。それで私勉強不足で恐縮なのですが、自分が住んでいる区とか病院がある区ですと、どんなことをしているかという情報がいろいろと入ってくるんですけれども、離れた区ですとか別な区ですと、これを見せてもらってやっとこういう活動をしているんだとやっと知ることができました。別な区から病院に受診される方なんかは、区でやっているのにひっかかってと相談のお電話をいただくのですが、ちょっと調べてみないと何に引っかかったのかご本人がおっしゃっているのかわからなくって。せっかくこんなに頑張ってやってくださっているのだったらもっとアピールしてもいいんじゃないかなと思いました。以上です。

（座　長）

はい、ありがとうございました。各区で特色のある取り組みをされておられて、私もこの表を見ていろんなことをやっておられるのだなと改めて感心いたしました。そのノウハウですよね、それを是非、自分の区だけではなくて全市で共有していただくと更に各区の取り組みが広がっていくような可能性があるのかなと今日思って聞いておりました。では、佐野委員お願いいたしま

す。

（佐野委員）

うちの病院では認知症の初期集中支援チームをやっているのですが、南区は田んぼとか畑が多い田舎の地域なんですけれども、そういう地域でやっています。わりとご高齢の方でも農家をやっている方も多くて、車の運転もちょっと危ない運転をしているんですけれども、なかなか運転免許の自主返納に応じてくれない認知症の方がいらっしゃったり、あと一人暮らしで医療になかなかつながらない人もいたりするので、引き続き初期集中支援チームの訪問というのは大事になると思いますし、あとは免許の自主返納をしても、南区では何人かで乗り合いタクシーという制度もありますのでそういったシステムがいろんな区でも広がるといいかなと思っております。今は割引があるんでしたっけ、昔は免許自主返納するとタクシー券とかもらえたりとか、そういう制度が引き続きなにか工夫なされたりすると、免許自主返納の人も減るのかなと思いますので、そのあたりも考えながら初期集中の件数を増やしていきたいと考えております。

（座　長）

ありがとうございました。他にも追加ありましたらお願いいたします。よろしいでしょうか。では次の議事になります。議事（２）今後のチームオレンジの進め方について事務局から説明お願いいたします。

（事務局：小柳）

また、私の方からご説明をさせていただきます。よろしくお願いいたします。チームオレンジの取り組みについては、本日もご出席いただきましたが認知症地域支援コーディネーターの井上さんより、中央区のしもまちの活動の進捗状況についてこれまで報告いただいておりました。井上さんからの報告でもありましたようにしもまちでは徘徊模擬訓練の実施ですとか、認知症カフェの開設など、少しずつチーム作りは進んできていますが、認知症の方への直接的支援ですとか認知症本人が参加した活動までは至っていないとのことで認知症の方の本人参加を含めた仕組みづくりが今後の課題とのことでした。

また、これまでの２年近くの中央区での取り組みを通じまして、当課としてもチームとして取り組むためには、認知症の本人や支援する人たちが集まる場が必要であること、また場があるだけではだめで、活動を行っていくには中心的役割を担うリーダーの育成が課題だと考えています。本日は、これまでの取り組みから見えてきた課題などを踏まえ、今後のチームレンジの進め方について、皆様からご意見をいただければと思っております。ご紹介が前後してしまいましたが、本日もみどり病院の認知症地域支援コーディネーターの井上さんからもご参加いただいております。チームオレンジの今後の進め方について、委員の皆さま方よりいろいろとご意見いただければと思います。本日もまた、はどうぞよろしくお願いいたします。私から説

明は以上になります。

（座　長）

はい、ありがとうございました。今後のチームオレンジの進め方について前回の推進会議の時に井上様の方からチームオレンジしもまちでの活動をご紹介いただきました。大変多面にわたる活動、それから徘徊模擬訓練、それからカフェの開設、それから地域のネットワークづくりを順調に立ち上げている様子を伺いました。今後の課題としましては、恐らく地域で認知症の方と交流したい、サポートしたいという方とそれから認知症の方自身も地域の中で何か自分の役割を担っていきたいというところをうまく合うような場をどう作っていくか、誰が進めていくのかということが課題となっていくと思います。今日、井上様がご合席いただいているので、最初に前回の話も踏まえて、今後の展望なんかを少しお話しいただけますでしょうか。

（井上さん）

はい、ありがとうございます。よろしくお願いいたします。前回お話しさせていただいたところからのその後の進捗状況についてお話しさせていただければと思います。チームオレンジ in しもまちでは、地域づくりセミナー、勉強会ですね、それと徘徊模擬訓練の打ち合わせと午後はしもまちの認知症カフェの３つの部門をやっております。今年に入りまして、しもまちのカフェの方ではご当事者の参加が少しずつ増えるようになりまして、今月３月のご来場者は３０人を超えまして、大分スタッフ以外でご参加いただく方が増えてまいりました。今月、ご当事者の方からお花見がしたいとのお話がありまして、急遽４月５日にお花見ツアーをすることになりました。参加予定者は、ご本人様ご家族様の２家族、それから身体の悪い方、弱視の方、地域の方などになります。初めてということで時間を短くして、みなとぴあの川辺りでお団子を食べましょうというぐらいなんですけれども、田中団子屋さんのカフェスペースがあるので、あそこであれば雨が降ったとしても晴れでも雨でも団子を食べられるということで今話を進めています。チームオレンジ in しもまちというのが、対象というのを個人支援型ではなくて街づくりを対象としている規模ものになります。先日、県の研修に出させていただいた時に、新潟県内ではオレンジカフェから広がる個人支援型のチームオレンジというのがどんどんできているんだなというふうに感じました。

それで、今実はもう一つ進めていることがあります。岡三にいがた証券さんといってＣＭにも流れているので耳にされたことがあるかと思いますが、そこの取締役の方から旧新潟支店の場所を提供します、人手、資金も提供します、認知症カフェを開いていただけませんかということで、この半年準備を進めてまいりました。来月４月１３日にいよいよオープンできる運びとなりました。カフェの会長は元民生員の会長を務められた方ですし、副会長は現コミュニティ協議会の副会長さんという方です。オープン当日に関しては、ご当事者のご来場は決まっておりますし、何

よりしもまちのカフェと大きく違うのはカフェの開催までにご当事者が打ち合わせから参加してくださっているということです。意見としては、あまりご発言は多くないんですけれども、どんなチョコが食べたいとか甘いものが好きなんだとか、それぐらいの意見なんですけれども、ちゃんと席に着いてまわりの意見を聞いてくださっていて、一緒に立ち上げからできたように私は思っております。また、岡三証券のカフェは規模が小さいだけにこじんまりとしておりますので、個人支援型となるかどうかはわからないですけれども、この先のイメージがまた膨らんでいるように思いますので、しもまちのカフェと岡三証券のカフェはちょっと対比的なところにいますが、それぞれの広がりが楽しみだなと感じております。ちなみに全国キャラバン・メイト連絡会で、企業部門で岡三にいがた証券さんはこの件に関して優秀賞をいただいたということです。動画にもあがっているようです。以上です。

（座　長）

井上さん、ありがとうございました。前回以降も様々な活動を展開していただいて、カフェがひとつの出会いの場の中心となっていて、当事者がカフェに集ってそこで、自分自身がやりたいこと、やってみたいことを話せる場になって、４月にお花見につながりそうだというお話し、それから岡三証券さんのカフェというのも新しい形のカフェの形態なんだと思いますけれども、いわゆる民間さんがこういうところに参入してくださるということもとても大事なことかなと思います。立ち上げに認知症の方が一緒に話を聞いて参加しているということもとても素晴らしいことだなと思いました。今の話も踏まえてこのチームオレンジの活動をどのように展開していけばいいのかというところで、少し委員のご意見を聞いていきたいと思います。では、佐野委員いかがでしょうか。

（佐野委員）

認知症の当事者の方を入れてのいろんな取り組みされていること非常に立派だと思いますので、いろんな地域でまた取り組めることもあるのかなと思いますし、地域性といいますか、中央区は人口が多くて割と狭いところにたくさんの人が住んでいますが、南区はかなり面積は広いんですが、人口も４万５千人しかいなくて、皆さん家に車が２、３台くらいあって、ちょっとの距離を移動するにもみんな車を使って移動するので運動不足の人も多かったりして、いろんな地域性があります。また、徘徊してもなかなか見つからないこともありますので、チームオレンジとしてその地域や生活スタイルに合わせたサポートなんかもみながら、各チームで対策を立てるのも必要なのかなと思って聞いてました。

（座　長）

ありがとうございます。では田中委員いかがでしょうか。

（田中委員）

はい、本当にしたいことを言って実現に向け頑張っていかれて、民生委員の方とかコミ協の方とかだけでなく、当事者の方も役割を持って参加しているのが本当に素晴らしいと思いました。今後のことというのは難しいのですが、新潟市内にはいっぱいカフェがあるので、そういったところが今後どうしていったらいいのかなと悩んだときに相談させていただけると助かるのかなと。

（座　長）

はい、等々力委員いかがでしょか。

（等々力委員）

岡三にいがた証券さんのコミュニティホールに私も先日お邪魔させていただいたんですけれども、非常に古町や本町市場なんかも近くって場所も非常に良い場所で、企業の方が場所とかも提供してくださったり、資金面なんかも協力してくださるということで、本当に担当者の方も暖かい方々で。ただ、今の報告の中でも皆さんからありましたけれども、当事者が気軽に参加できる場所とか、自分の意見も当事者がちゃんと言っているところとか、９月に計画している認知症のフェスというのも企画していて、非常に井上さん頑張られているなと感じています。井上さんだからできるのかなと感じるところもありますけれども、ただこれ今はモデル事業ですけれども、なんとかうまくいってほかの区にもできれば広がってほしいなと私たち家族の会としては思っています。ご苦労様です。よく頑張られていると思います。以上です。

（座　長）

はい、ありがとうございます。井上さんはコーディネーターという立場でありながら、ご自身がかなり動いた形で立ち上げたところもあるかと思いますけれども、実際に全市で展開していく中で井上さんができる範囲、すべてができるわけではなくて、ある意味役割分担も必要なのかなという気はするんですね。やっぱりオーバーワークになってしまうと続かないというところがあって、やっぱり任せるところは任せて、ある意味困ったときに相談役という立場が必要かなと思うんですけれども、実際に活動を進めながら、役割分担で心掛けていることとか、困っていることとか何かありますでしょうか。

（井上さん）

はい、岡三にいがた証券のカフェに関しては主体が岡三にいがた証券さんです。あとカフェの会長、副会長、会計もいるので私は本当にオブザーバーとしての立場です。しもまちの方が、先ほど話したように規模が大きい、対象が大きいものとなっているので、発起人として、私と包括ふなえさん、それとしもまち圏域の支えあいの仕組みづくりの３事業所の全部で４人なんですが、そこが主体となって動いています。先ほど、３部門ありますと言ったんですが、３事業所で手分けをしてそれぞれのリーダーがついています。なので、私全部やっているというわけではないん

です。ただ、発起人がリーダーになってしまうところは、この先、一般の方のリーダーが立てられるといいなと思っています。で、カフェ部門は、会長、副会長さんがいるのでそれでいいのかなと思いますが、徘徊模擬訓練は、次年度から入船コミ協の団体の一つにチームオレンジが参画することになっていますので、入船コミ協さん主体に変えていけたらいいなと思っております。地域づくりセミナーは専門職の人材をそろえたりする必要がありますので、それは発起人の誰かが続けていくことになるかなと思っております。

（座　長）

はい、ありがとうございます。では、荒木委員、何かコメントいただけますでしょうか。

（荒木委員）

やはり、担い手というところが日頃から一番難しいと思っておるところですけれども、西区の場合はキャラバン・メイトの連絡会が今ようやく立ち上げってきておりまして、先ほどから係長からお話がありましたように、サポーター養成講座などがありますとそこでコーディネイトしていただけるようになってきております。これまで、連絡会がない、マルタケさんがいない時期は、直接包括ですとか区の方とかにご相談していてだいていろんなことを決めていっていたんですけれども、こうやって連絡会ができたことで企画の原案というところを作ってくださるようになって、こういったことを言うのは何ですけれども、非常に楽になりました。ですので、今ほどの井上さんのお話もそうですけれども、少しずつその地域のなかで役割が分担できるようになっていくことが本当に必要なことであると思いますし、そのためにそれぞれの地域で地域ケア会議というものが行われていると思いますが、そういったところでチームオレンジがこんな進捗状況ですよという話題が共有される場面があると、皆さんの考え方もまた少し寄り添っていただきやすくなるのかなと感じております。ですので、各包括で開催しておりますケア会議も活用していただければと思いますのでよろしくお願いいたします。

（座　長）

はい、貴重なご意見ありがとうございました。では、近委員いかがでしょうか。

（近委員）

はい、認知症カフェの実際の開催件数というのがここにはないのですが、地域のお茶の間を参考にしてみると月１回ですとか、月２回、毎週、いつでもどうぞ、などという４スタイルがありますが、認知症カフェが集う場所の一つだと思いますが開催数が増えると行きやすくなるということもありますので、先ほどの担い手をどうするのかということもありますが、今月１回の開催をもうちょっと頑張ってみようかとかチャンスが増えるといいのかなと思います。私は西区に住んでいるんですが西区あたりでは。なんか、やりやすいところから、住民が多いところからスタートするとか、そういったところからできるといいのかと思っています。以上です。

（座　長）

はい、ありがとうございました。認知症カフェの開催状況などありますか。

（事務局　小柳）

市内ではこちらが把握しているところですが、１６か所ほどあります。今ほど資料をお配りしておりますが、近さんの方からもっといっぱい開催されるといいのではというお話がありましたが、大体のところが月１回というところがほとんどになります。

（座　長）

お手元の資料では認知症カフェの名称、それから場所、問い合わせ先、頻度が記載されています。場所も様々でコミュニティセンターであったりカフェみたいなところでやったりしておられます。みどり病院もカフェをやっておられますが成瀬委員、いかがでしょうか。

（成瀬委員）

みどり病院は施設内で１か所やっていますし、あとはコーヒーショップをお借りしてやっておりますけれども、それぞれいいところ悪いところがあって。長岡ではずっとコーヒーショップでやったりしていますけれども、そういうところでやるというのも、皆さんが一緒にやっている感といいますか、カフェで気楽にやれるということもいいのかなと思います。カフェについてはそんなところですが、先ほどの話をしてもいいですか。

（座　長）

はい、どうぞ。

（成瀬委員）

今後広めていくときに今思っているのは、相当なエンジンがないと、ターボチャージャーみたいのがついていないとなかなか難しいと思うんですよね。それがやはり片手間ではなくて専従じゃなくて何かの兼任でやっているとちょっと難しいんじゃないかなと。今聞いいても、企業が入ってくるとなんかうまくいくのかなと思って聞いていたんですけれども。そういう企業さんがどんどん入ってきてくれるとまた進んでいくんだろうなと思いますけれども。そうでないと、最初は相当大変なので、最初だけでも専従みたいな人を置いておかないとなかなか厳しいのかなと思います。やっぱり、皆さん忙しいので、途中からだんだん廃れていってしまうということが多くなってしまうので、もっと完全に波に乗るまでは、誰か一生懸命やる人を置いておかないと難しいのかなと。

（座　長）

ありがとうございました。では、森委員いかがでしょうか。

（森委員）

今回初めてということで、前の会議のことを把握できていないので何とも言えないのですが、

各地域でのお茶の間だとかそういう活動というのは、出ては引っ込み、出ては引っ込みと非常に継続することが難しい。私も地域でやったことがあるんですけれども、いい時は月に２回とか、集まる人数も１０人近くいて、先生がおっしゃられたように一旦エンジンが切れると、それが５人になり、２人になり１人になるということで、いかに継続して徐々にすそ野を広げていくというのが大事なのかなと、だから非常に時間がかかることなのかなということは感じております。それと、素晴らしいことだと思ったのは、認知症の方が自ら参加をするというところ、与えられたものに対して参加するというのではなくて、そこが素晴らしいなと。そこを継続していくとそれなりに定着していったりと、すそ野が広がっていくのかなという印象を受けました。

（座　長）

ありがとうございました。委員の意見を聞いて、井上さん何かコメントなどありますか。

（井上さん）

そうですね、私もしもまちを立ち上げた時の最初の一年間ではほとんどご当事者と交わることがなくて、それが非常に反省点でした。今年になってようやく来所者の中にそういった方もいらっしゃっていただけるようになって、カフェの中でじっくりお話する中でいろんなご意見を聞いていただけたり、そこから岡三証券へのカフェの方にもスムーズにつながっていったので、岡三証券の方はこれまでの失敗を踏まえての第二弾ということになります。なので、私だからできたというのは、一部分ではそうだなと思うところもありますが、それがどんな方でもできるようになるといいなと考えとしてはあります。あと、等々力さんからもお話が出ましたが、しもまちの方でイベントを考えたり徘徊模擬訓練を次年度も考えたりしているんですが、ちょっと活動にご理解いただけない方も地域の方とかもいらっしゃるんです。そういった方々がいらっしゃるのも当然だとは思いますが、そういった方々と折り合いをつけながら、私たちの活動を理解していただけるかというところが、当面の課題として考えているところです。

（座　長）

ありがとうございました。いかがでしょうか。

（高橋課長）

先生よろしいでしょうか。

（座　長）

はいどうぞ。

（高橋課長）

今ほど、皆様から貴重なご意見をいただきまいたが、そのなかで本人参加というところがキーワードとしてあったんですけれども、やはり本人参加というと認知症カフェへの参加ということになるのでしょか、どんな感じでしょうか現場では。認知症の人の本人の参加というと、どこに

参加するということになるものでしょうか。やっぱり、認知症カフェということでしょうか。

（近委員）

そんなことないと思います。例えば、認知症カフェにたどり着く前にご家族だとかご近所に住んでいるところの自治会ですよね。そこに例えば私の地域ですとチューリップの会というのが週1 回あって、お茶のみを中心に今は集っていますが、まずはそこに通ってみないかと声を掛け、近所付き合いがあればそこのような気がします。それで、ちょっと最近、運動教室なん来られた時にもの忘れが多いよねとか、忘れっぽいよねとか、そういったところの周りの人の気付きからのような気がします。それで、例えばご本人が悩んでいるとかご家族が悩んでいるというときに気軽に行ける場所、認知症カフェみたいなちょっとイメージがあります。

（高橋課長）

ひとつのアイテムとして。

（近委員）

はい、そうです。

（高橋課長）

そういう感じなんですね。

（近委員）

すぐに病院に行くのがちょっと怖いとか。

（高橋課長）

まずは地域活動への参加というところも含めて本人参加と考えた方がいいと。

（近委員）

はい。

（高橋課長）

そのへんのところが、等々力さんもいろいろと関わっておられるかと思いますが、認知症の人ご本人の参加というのが大切だとは思うんですが、まずはどういったところでの参加ということなのかちょっと私が知りたかったのと、あとは先ほどお話しにも出ていましたが認知症サポーターは沢山おられて、メイトさんもいっぱいおられますが、実は私、いろんなところで活躍したいんだけれども活躍する場所がわかんないという方も沢山いらっしゃると思うんですよね。そうしたと時に、どこに行ったら活躍できるのか、それが認知症カフェなのか、地域だとしても地域のどこへ行ったらいいのか、なかなか難しいと思うのですがそのへんのところで、先ほど小柳が説明しましたけれども、私たちの方でもサポーターも養成しメイトさんも沢山いるけれども、実際に活躍されている方が少ないということなので、活躍できる場がどうしたらお知らせできて、どこへ行けば活躍できるかというところをどうしたら解決できるかご助言いただければと思いま

す。

（等々力委員）

はい。

（座　長）

どうぞ。

（等々力委員）

はい、もちろん認知症カフェはもちろん当事者とか、ご家族の方にとって大事だと思いますし、ほんとに当事者から学ぶことも沢山あって、すぐ忘れる人とか思っている人も多いですが、当事者からどんな環境がいいのかとかどんな関りがいいのかとか学べるんですけれども。その一方で、前も申し上げたことがあるのですが特に初期の認知症の人で、診断されてからなかなか支援に結び付かないという空白といわれる期間、特に若年性認知症の方なんかは高齢の人の通われる場なんかが合わないとか言われますが、そういった人たちがサービスとか支援に結び付くまで、認知症カフェだけじゃなくって、しもまちであったら北部コミュニティセンターなんかで行われている歌を歌うとか運動であるとかの趣味のサークルがあると思うんですが、そういうところに認知症サポーターがいて、参加することで認知症人の進行の防止とか本人の生きがいづくりにもなればと理想的には思うんですけれども。あと、湯沢とか西蒲区なんかにありますが農福の連携といったように農園なんかも各地にできればいいなと思いますし、あと、サポーターの方は、やる気があって支援をしたいからわざわざ講座を受けてくださっているのに、何をしていいのかわからないとか周りに認知症の人がいないのでというのは残念です。先日、ユニゾンプラザでお会いしましたが、フォローアップ講座をやっていて参加してくださる人がいて非常に良かったと思っています。せっかくやる気のある人が９０分の講座で終わってしまうのはちょっともったいないので、フォローアップ講座もひとつですし、何かそういう人たちが地域よっては茶の間を作ったりとかできるといいなというふうに思っています、もっと活かせないかなと。

（高橋課長）

サポーターについては、実際に自分のできる範囲でやるというのがサポーターですので、直接活動しなくとも、認知症のことをよく知っていて、例えば、今まで関心がなかったのがそういう人を見かけたら声をかけることができるようになったということころもサポーターだと思うんです。

（等々力委員）

そうですようね。

（高橋課長）

なかには上を目指してフォローアップ研修を受けてみたりしてくださる人がいらっしゃって、

それで活躍したいんだけれどなかなか活躍する場がわからないという人もいらっしゃるものですから、どういった形でどういったところで活躍ができるんですよというというようなところがあると、もっともっと外へ出て活躍できるのかなという思いがあるんですよね。

（成瀬委員）

いいですか。

（座　長）

はい、成瀬委員どうぞ。

（成瀬委員）

例えばうちの法人とかでもやりたいことがいっぱいあるんですよね。どうしても人が足りないということもあって、恐らくそういうところが市内でもたくさんあると思うんですよね。やりたいんだけどスタッフがいないとかですとか、だからそこでうまく何かマッチングさせるようにそうゆう方法。ボランティア集めてやっている今の社協みたいに登録していてもらってマッチングするとか、そういのがあるといいですよね。それも気軽に、あまり仕事、仕事してなくて。

（高橋課長）

そうですよね、そういうのができるといいなとは思うんですけれど。

（成瀬委員）

それも気軽に、あまり仕事、仕事してなくて。

（高橋課長）

そうするとお互いにいい。活躍したい人も活躍できるし、人手が足りないところは人手ができるしと、有効にできるのかと思うんですが。それを具体化しようとしたときにどんな方法があるのかを考えなくてはならないと思いまして。

（近委員）

キャラバン・メイトはメイト連絡会が大分できてきて、本人希望で登録できているんですね。私みたいに、どこでも行きますといったような登録をしている者もいるんですが、少なくともご連絡先、今であればメールアドレスだったり、ラインがいいという方もおられるかと思いますが、マッチングフローと書いておられますが、何曜日が開いておりますとかこの季節は大丈夫ですとかを何かそういうところを認知症カフェですとか、地域包括支援センターだったりですとかとつながって、みたいな形が一番いいのかなと。みどり病院ですとボランティアは病院の花壇ですとかやったりですとか、ほんとにちょっとですが不定期だとやりますよとか、ああいうのはいいなと思っておりました。

（等々力委員）

新潟市の方に照会していただいたのですが、サポーターの方をうちの会にも来ていただいたの

ですが、今コロナであんまり活動があれですが、傾聴ボランティアとかサポーターの方がやっていただくとかできると。つながらなくてただ９０分受けて終わってしまう、そこでなんか紹介できる核になってくださる方がいて紹介できたら理想的なんですよね。

（高橋課長）

つなげられると一番いいんですがね。

（等々力委員）

ですよね。もったいないですよ、せっかくやる気があるのに。

（高橋課長）

まずは気運醸成といいますか認知症のことを知ってもらうというのが一番なので多くの方にサポーターになっていただくというのが一番だと思うんですけれども、その次の段階としてそういった活躍の場ができればとそのように考えています。

（近委員）

それこそチームオレンジしもまちさんで登録をしてみるのもいいのかなと今、思っちゃいました。

（座　長）

どうぞ。

（井上さん）

あの当院で毎月認知症サポーター講座をやっておりまして、そこの講義の最後に、必ずしもまちのことと岡三にいがたの認知症カフェの手伝いいかがでしょうかということのアナウンスをしております。そこから来ていただく方もいます。後は、サポーターさんがステップアップ研修をしてチーム員になれるわけなんですけど、当院でもステップアップ研修を昨年度２回行いましたけれどもちょっと内容を見直しております。なぜ内容を見直しているかというと、当院だけでやるということだとステップアップ研修そのもの自体が広がらないと思っているので、今回ちょっと持ってきたんですけれどもこういった全国キャラバンメイト連絡会が出しているステップアップ研修のためのテキストがあるんですが、これを使って講義をするということであれば、同じテキストを使って同じ内容を行うわけですから誰もが同じ内容でできる。誰もがというのが、私としてはどこのキャラバン・メイト連絡会でもできる内容というように考えているんです。ので、ひとつ基本となるプログラムを立ててしまえば、現在、連絡会が立っている西蒲、西、江南、中央、東でどこでもできる。そうなると先ほど頂いた資料では、フォローアップ研修の受講者が１１人となっていたんですけれども、もっともっと増やすことができるのかと思っているので、ステップアップ研修の定義というところを推進課の皆さんに検討していただいているんですけれどもよろしくお願いいたします。

（座　長）

はいどうぞ。

（高橋課長）

はい、今井上さんから出たんですけれども、まずは岡三証券ですとか、しもまちのカフェをお手伝いつだしたらどうですかというお話もあったんですけれども、なんかカフェの方に行ってみたらどうですかというのが一番手っ取り早いのではないか、まずは。それこそ地域に入っていくというのも今後あると思うんですけれども、まずはどこへ行ったらわからないときにカフェの方でお手伝いしたらどうですかというがいいのでは。でも、カフェの人たちというのもいろんなカフェがあろうかと思います、悩み事を相談するだけでいいんだというようなカフェ、そういうお手伝いが入ってこないほうがいいというようなカフェがあるのか、それとも人手が足りないからそういった人たちから参加してもらった方がいいと考えるカフェが多いのかその辺の実態というのはどうでしょうかね。

（成瀬委員）

それはもう来ていただいた方がありがたいですよね。

（高橋課長）

カフェとしては。

（成瀬委員）

それは断るカフェはないと思います。そもそも認知症カフェというのは、認知症がある人もない人もよる場ですので、その中でそういう人がいてくれるとなおよいと思います。で、あわよくばそういう人たちが運営してくれるようになると一番よいかと。

（高橋課長）

そうですよね。それでリーダーができていって、リーダーが中心になって活動を進めていくということができればいいと思っているので、まあカフェじゃなくてはだめだということではないですけれども、まあカフェを中心として活動してもらうということができると、方向性としてはいいのではないかなと考えているのですけれどもどんなもんでしょうかね。

（成瀬委員）

だからやっぱり専門職がやるというよりはそういうところで広がっていくのが一番理想的だと思うんですがね。

（高橋課長）

それぞれカフェを紹介するときに、ちょっとどうですかというみたいな話を投げかかるというのも。

（成瀬委員）

多分、今のカフェはほとんどが専門職の人達がやっているようなカフェなので。専門職の人は専門の仕事がありますし、やはりそういうところでボランティアの人たちが主体になってやっていっていただくというのが、本来そういうものが認知症カフェだと思います。

（高橋課長）

なんで、今後講座を開催していく時に、先ほど言ったような講座をするだけでなくて、活動した人はこういったカフェがあるので直接行って活動をしてみてくださいというような周知をすると、やりたい人はどんどん行くようになるのかなと思うので、まずはその方向性でやっていくのもひとつなのかなと考えていますけれども。そういう講座ではカフェというのも紹介しているけれども、ということなんでしょうかね。

（井上さん）

あともう一ついいですか。

（座　長）

どうぞ。

（井上さん）

うちの病院でやっている定期開催の認サポとメッツ古町さんでも常設開催していて、中央区ではその２つの会場が新人メイトさん一緒にやりましょうと、受け入れをしている認知症サポーター養成講座になります。先日、メッツ古町の代表方に、この一年で新人のメイトさんと一緒にやりましたか、どれくらいの新人メイトさんが旅立っていったかを聞いたんですけれども０人です。で、見学者は４、５人来たということでした。でうちの病院ではどうかというと、同じく見学者は５、６人ぐらいは来たかな。それで、おひとりとてもブランクのある方が独り立ちをしようと、今で４か月目で頑張っていて、もう１か月ぐらいしたらおひとり立ちができるんじゃないかなと思っているんですけれども。その方は、ケアマネさんなんですけれども、その方がおっしゃるには、ひとり立ちはできたとしても自分が開催することはないですねとお話しされていました。なので、ちょっとその辺の新人メイトさんが教育できる場、ブランクのある方がまた活躍できる場をもうちょっと充実させるということと、そのあとに活躍できる場を増やす手立てが何か必要なのかというふうに感じます。

（座　長）

はい、ありがとうございました。小川さんなんかありますか。

（事務局　小川）

地域包括ケア推進課の小川です。いつもお世話になっております。井上さんのおっしゃってくださったのは、メイトの講師側の方かなと、お伺いしてて思いました。認知症サポーター講座を受けた市民の方が認知症カフェに行くとお手伝いできますよというアナウンスができたらいい

のかなと思っていますというところもして行けたらなと思いますし、あと成瀬先生がおっしゃってくださったように、そういった認サポを受けた方がステップアップ講座を受けるなどしてカフェなんかに行っていただけると、先日のカフェの運営者の方々との情報交換でお話しさせていただいたんですけれども、運営者の方々は専門職の方が多くて、本来業務が忙しさのなか月一回の開催が精一杯といことで、そういった方が増えていっていただけると回数も増えたり、もしかしたら場も広がりもできてくるのではないというような苦悩されているお声をいただきまして、そういったことを広げていきたいけれども、なかなか運営者のなかで自治会だったりコミ協だったり行政だったりの横のつながりを広げていくのもなかなか大変だということもおっしゃっていたので、当課の課長が言ったように認知症カフェがチームオレンジのすべてではないんですけれども、合わさることでカフェの運営者方々の思いというのも少しメリットというか一緒に前進というか、いい方向に進んでいくのではないかなというというところもありまして、委員の皆さまからご意見をいただければというところでした。

（座　長）

はい、ありがとうございました。田中委員で何か追加でご発言ありますでしょうか。

（田中委員）

今、お話を聞いていて、当院もカフェに参加してりするんですけれども、本当に包括の方、ケアマネジャーの方、デイサービスの方とか仕事としてかかわっていらっしゃる方が運営をしているんですけれども、そういったところにひとりでもサポーターの方が入ってくれることで地域の方もそこから加わりやすくなるんじゃないかなと思って聞いておりました。是非そういう方が増えてくれるといいなと思っております。

（座　長）

あの若年性認知症コーディネーターでもおられて、若年性認知症の方の活躍できる場としても、認知症カフェを含めてあるんじゃないかなと思っているんですけれども。

（田中委員）

若年性認知症の方は、例えばデイサービスに来ていただいて、お茶飲んで帰ってくださいというと、やっぱりちょっとご本人もサービスを受ける年齢にも達していないから、やっぱり抵抗を感じると思うんです。ですので、全国の取り組みの中でカフェとかデイサービスのなかで役割があった方が本人もそこにサービスを受けに行くのではなくって、皆さんにできることがあるんだという意識の中で参加する方がやりがいを持って、拒否なく行くことができるといろんなところで言われているので、本人参加できたら素晴らしいと思います。

（座　長）

はい、貴重なご意見ありがとうございます。いかがでしょうか、他にご意見、コメントありま

すでしょうか。森委員どうぞ。

（森委員）

初めてであれなんですけれども、認知症サポーターの育成ということで私、４回くらい受けています、同じやつを。地域で受けて会社で受けて、それで終わってしまうんですよ。で、その上って何があるのって、何もなくて。なかには義務としてきている人もいます、なかには自分が苦労してだとが、例えば老後に何かやりたいとか社会貢献したいと考えている人がどこへ行けばいいのっていうところがぼやっとしていて。例えば、私は民生委員になってこういう手づるといのがわかるようになったのですが、手づるがわからないですよね。なかには、ほんの少しだと思うんですけれども、そういう人たちがどこに行けばいいのかなっていうところが非常に素人として感じているのと民生委員のなかにおいても、この話題はやっぱり出ます。ここでこういう人がいて大変だったとか、こうだったと、だけどそこで終わってしまう、結局。その先どうするのっていうところになかなか踏み込めない、あなたの地域大変だったねって終わってしまうところがあって。だからこれも、コマーシャルではないですけれども、こういういろんな場があるというところコマーシャルがあるといいのかなと素人として感じました。

（座　長）

はい、ありがとうございました。活躍の場、というか参加できる場、どうつなげていくかということで、チームオレンジがその役割を今後担っていくということと、それを広く周知するというか発信するということが大事だというご意見だと思います。

（座　長）

はい、どうぞ。

（佐野委員）

はい、私、南区で認知用カフェにもたまに出ているんですけども、私が外来で見ている患者さんがカフェであったりするんですけれども、外来と違って、また見られない表情とか自由な雰囲気の様子が見られてすごく勉強になったりしますし、また一般の方のサポーターなんかも参加されると認知症の方へのなんか偏見とか先入観みたいのがあって何もわからない人ばかりじゃないかと思っているかと思うんですけども、実際には残された分というのは人によって違いますし、そういったところを感じる意味でもカフェに出たりするのはすごくいいかなと思っていました。また、南区は田んぼとか畑が多いんですけれども、高齢の認知症の方が畑とか田んぼができないで、結構委託に出したりしているんですよね。ま、そういうところにもサポーターの方なんかがというのもなかなか難しいかもしれませんが、ボランティアで少し認知症の方のサポートができると、地域に合わせた関わり方とかもあるかと思いますので、いろんな活躍の場があると思うのでいろいろ考え出ししてシステム化するのが大事かなと思っているんですけれども。

（座　長）

はい、ありがとうございました。あの、今日は沢山の建設的なご意見をいただき大変ありがとうございました。これをひとつひとつ実現してチームオレンジを広げていくことが今後大事になってくるのかなと思います。では、本日の議事はこれで終了いたしたいと思います。それでは進行を事務局の方にお戻しいたします。

（司　会）

はい、大変長い時間ありがとうございました。最後になりますが何点か事務的なご連絡をさせていただきたいと思います。冒頭にも申し上げましたように、本日のこの会議の内容、議事録を作成させていただきまして、皆様にご確認いただいた後に資料とともにホームページに掲載させていただきたいと思いますのでよろしくお願いいたします。それで、来年度になりますけれども、介護保険事業計画の見直しの年になっておりますので、そういった部分も踏まえまして、この会議を来年度は３回ほど開催したいなというところで考えております。時期としましては、８月、１０月、翌３月を予定しておりますのでよろしくお願いをいたします。で、こちらの事務局の話になるのですが、４月の人事異動の時期でありまして、当課からも一名人事異動がありましたのでご連絡をしたいと思います。当課では渡邊というものが秘書課の方に異動ということになっております、一言。

（事務局　渡邊）

はい、地域包括ケア推進課の渡邉です。皆さんとは初めてと申しますか、こういった会議参加することはなかったんですけれども、今日は勉強する機会をいただきまして大変ありがとうございました。

（司　会）

４月以降、新たなメンバーを一名加えまして、皆さんとともに会議の方を進めさせていただきたいと思います。それでは大変長い間ありがとうございました。本日の会議はこれで終了したいと思います。お疲れ様でございました。